

修復期間 ・約3年（令和8年3月修復完了）

土蔵特徴 ・土蔵造り 2階建て 切妻造 棧瓦葺 桁行6.37m 梁行4.5m  
南側に観音扉の出入り口 1階北側、2階西側に窓  
・本町の呉服「三河屋」所有を秋元家が買取、現場所に曳家

修理内容 ①屋根瓦の葺き替え（瓦をすべて外し使用不能の瓦の取替、土から板葺きにする）  
②土壁の直し（トタンを外し当初の形状に戻す、漆喰壁を塗り直す）  
③1階の修繕（床・基礎の補修、耐震補強、階段はそのまま活用し手すりを付ける）  
④照明設備・消防設備の設置、外構部の整備など

---

・北澤博物館館長の説明

・文化財を修理する場合の前提

- ①古いものを残しながら再利用する。；瓦も一枚毎に番号を付けてから剥がした。
- ②新しい板材は必ず修理年の焼印を入れる。；次世代（100年後）修理への記録  
・今年一茶双樹記念館の畳替えを行ったとき、平成7年修理の木材が出てきた・

・修理前跡の状態 ==> 陣屋（土蔵）の室内に展示パネルがあります。（残るもの？）

・屋根

- ①屋根の中央部が大きく凹み草が生えていた。
- ②瓦は雨樋で止まって全体がずれており、いつ落ちてもおかしくない状態だった。
- ③古い建物の瓦なので「瓦の重なる幅」が大きく、瓦の下は土が敷かれていた。  
（土葺き：江戸時代～明治時代に多い）
- ④瓦葺きは「瓦ー土ー杉皮、杉皮を止める竹ー野地板」となっているが（新川屋も同じ）、ひび割れがあつて凹んでしまい、穴が開いている箇所があった。  
・瓦の重なり幅大きく（瓦数が多い）」土葺きの為、建物への重みがかかり、傷みが生じた原因の一つと考えられる・

・外観壁等 ⑤外観壁は壁落ち防止の為トタンで押さえていた

⑥床板等の傷みがひどくなっており、修理が必要な状態であった

・修理内容 ①瓦は一枚毎に「何列目の何番目」と表示してから外した。

- ②新しく取り替えた瓦は刻みを古いものに合わせて加工（長く）している
- ③新しい具材は次の修理などの為、必ず焼印を行った

・特記

- ①新発見：三河屋の蔵を証明する刻み「山九 三河屋九兵衛」が階段横の壁で発見
- ②2階の床に荷揚げ用（反物等）の上下する空枠がある。（蔵には殆どあり、ガイドの時踏まない注意が必要）
- ③1階床下は格納スペースとなっており、床板部分を剥がすと新板材焼印が分かる

以上